

# 国鉄新潟

NO. 568  
発行  
2006・4月15日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部

## 大同団結・歴史的集會に

四月四日、東京・日比谷野外音

楽堂で『国鉄労働者一〇四七名の総団結で不当解雇撤回！JR採用事件の勝利判決をめざす！』全国集會が開催されました。全国から四六〇〇名、新潟からは、三五名が参加しました。（闘つ闘争団・建交労・新潟地区労・国労など、民主団体・個人）一八時から国鉄合唱団による合唱

のオープニングでスタートしました。

東京・仙台・横浜・北陸・長野から二〇名の団員が、素晴らしいうたごえを響かせました。



### さらさら前進・発展へ

開會あいさつは、高知短期大学名誉教授・芹澤寿良氏で、『国鉄闘争は二〇年目になる。九月の地裁判決を契機にし、国労・全動労・千葉動労などの組織が共闘する方向で議論二・一六集會を開催、大同団結で成功した。共に闘い続けてきた人達が

呼びかけ人代表早稲田大学名誉教授

### 中山和久氏

1047名の不採用事件は20年の闘い。ひとりも路頭に迷わせない～当時の政府。郵政は、ひとりの解雇者を出さなかった。分割民営化は国労と社会党をつぶすため。団結の力でILO勧告の履行を。早急的な政治的解決を大きくしていく。



大同団結「さらさら前進、発展していく。勝利解決まで運動を大きく広げ発展していくことを誓い合おう。歴史的な集會に労組・家族・民主団体が結集した」とあいさつがありました。

四月三日現在、一〇四七名の支援団体は二〇〇団体。各代表の方々からのあいさつや決意表明など内容のこい集會でした。一八時からじまった集會は約二時

### 国労が闘いの先頭に立つ

国労本部 佐藤委員長

はじめに、中里議長から『国労を全面的に指示し勝利するまで、全面解決で闘うことを誓う』と、力強いあいさつがありました。

つづいて佐藤委員長は『この機に解決を、39名の闘争団員が亡くなった。政府・政治の責任による解決を。早期の話し合いによる解決を迫る。国労が闘いの先頭に立つて、1日も早い解決には何が必要か＝行動に立ち上がる。政府に解決を迫る。全国的な宣伝行動。署名・意見広告の記載。

全国的な集會・大衆行動を展開する。さらに大きな支援を要請する。今、解決の時、闘争団を組織し全体的解決に向けて全力を上げてがんばる。』とありました。



一八時よりオープニングから始まった中央集會は、四六〇〇名を結集した素晴らしい集會になりました。いろいろな困難がありますが、全てのあいさつの中で、小異を捨て大同につく。全面勝利するために大同団結できました。参加者、ひとりひとりの心の中には、この言葉がいつまでも残っていると確信しています。

間、二〇時頃に終了し二一梯団にわかれ、日比谷公園から東京駅を通り常盤橋公園までデモ行進が行なわれました。

# 4・4全国集会

国鉄闘争に勝利する  
共闘会議議長  
二瓶久勝氏



共闘会議は二〇万人を組織している。二〇年目の正念場の闘いになっている。二・一六集会は当事者の団結を、今日の集会で支援者との団結を、国労との連帯を深めたい。九・一五判決は不当労行為を認める判決。四年間かけた成果。三〇〇名の原告団。全面解決。国交省は同じテロブル、のらない。何倍もの闘争を展開しないと解決しない。裁判を訴えていない人達。裁判闘争をしなければ解決しない。全体が一緒にしないと解決しない。くいとめる闘い

# あいさつ・決意表明

東京大学大学院・教授

小森陽一氏

三月三十一日、全国集会が四〇〇〇名以上の参加で成功した。今日の力で成功した。自民党の憲法草案が二〇月二十八日に出された。九条を改悪し自衛隊の集団的自衛権の行使を、憲法改悪は日本を、米国の世界戦略に協力、かたがわりさせよう。沖縄での米軍基地反対に三五〇〇〇人が集会。市ぐるみの運動が展開している。若国市でも住民投票が行われている。ひとりひとりが立ち上がる。



松山大学助教授

大内裕和氏

分割民営化は、国労総評を解体する。これが目的だった。同様の攻撃が教育現場にある。卒業式、入学式で白の丸君が代の強制。従わない職員を処分。(二四四名)東京教育委員会は生徒の指導を強要。歌わせること。憲法改悪と同様の攻撃だ。戦争を迫っている。

国家の戦争政策に対抗する新たな闘いをしていく。



# 1047

連絡会代表の決意表明

国労闘争団 神宮議長

一〇四七名。大同団結を図り解決の道筋が高まった。ILO勧告の早急な履行を。集会の力を結集し政府を迫り、全体で奮闘していく。

動労千葉鉄運機構訴訟

高石原告団代表

二〇年単独で闘い続けてきた。二・一六集会から、一〇四七名と闘う方向を位置づけ多くの仲間と共に一〇四七連絡会をつくり進めてきた。運転保安闘争。JRに対し断固反撃していく。この闘いも含め全力で闘いぬく。

鉄建公団訴訟原告団

酒井団長

九・一五判決。一〇四七名がまとまっていかなければ勝利しない。四月四日まで、さまざま問題があったが大団結した。今日の集会がガラス細工にならない、これがない闘いにしていく。小異を捨て大同に立つ。今日現在、一〇四七名が、まとまっても国交省への話し合いができない。一日も早く裁判にうつって欲しい。国労の仲間には訴えたい。裁判闘争への結集を。



